

第 55 回日本母性衛生学会

演題名

市販母乳保存容器を用いた冷蔵および冷凍母乳保存における経時推移の報告

板子 絵美、斉藤 哲

ピジョン株式会社 中央研究所

【目的】

母乳の冷蔵、冷凍保存試験に関する先行研究は多数存在するが、少量の試料で試験したものが多く、実使用に近い量での保存試験報告は殆どない。本研究は、100g 以上の母乳を冷蔵（約 5℃）、冷凍（約 -18℃）で保存した際の実使用に近い状態での細菌数や成分値を報告することを目的とする。

【方法】

事前に研究主旨を口頭と文章で説明し、同意が得られた、乳首や乳房のトラブルがない健康な授乳婦を対象とした。冷蔵保存試験は 7 人、冷凍保存試験は 8 人に、普段の授乳を阻害しないよう配慮してさく乳をしてもらい、一つの検体として集め、P 社製の市販母乳保存容器にそれぞれ均一に分注した。冷蔵保存試験は母乳採取後 0 時間と、冷蔵 24、48、168 時間後に一般細菌数、黄色ブドウ球菌、乳糖、脂肪酸、IgA、オキシトシンを測定した。冷凍保存試験は母乳採取後 0 時間と、冷凍 3 週間、3、6 ヶ月後に解凍して、冷蔵保存試験と同じ 6 項目を測定した。

【結果と考察】

冷蔵保存試験について、一般細菌数（生菌数）は冷蔵 0 時間で $7.3 \times 10^3/\text{ml}$ 、24 時間で $4.2 \times 10^3/\text{ml}$ 、48 時間で $3.7 \times 10^3/\text{ml}$ 、168 時間で $8.8 \times 10^2/\text{ml}$ であった、冷凍 0 時間 $1.3 \times 10^4/\text{ml}$ 、3 週間 $1.2 \times 10^4/\text{ml}$ 、3 ヶ月 $1.3 \times 10^3/\text{ml}$ 、6 ヶ月 $1.1 \times 10^2/\text{ml}$ であった。他項目の結果は、当日報告予定である。